

八海山 (南魚・六日町、大和町)

■環境：山地
 ■対象：健脚
 ■期間：4月～11月

信仰の霊山として魚沼の人に親しまれている。険しい岩だらけの山だが、八ツ峰の下を広大なブナ林が覆っており、豊かな生きものたちの聖域である。

<八海山ゴンドラで八海山頂へ>

八海山での探鳥は、ゴンドラを利用して山頂駅（4合目標高1,155m）まで一気に登り、昔のままの鎖のついた岩場をつたわって山頂に立ち、大日岳を経てブナ林の中をゆっくり探鳥しながら下山するのがよい。

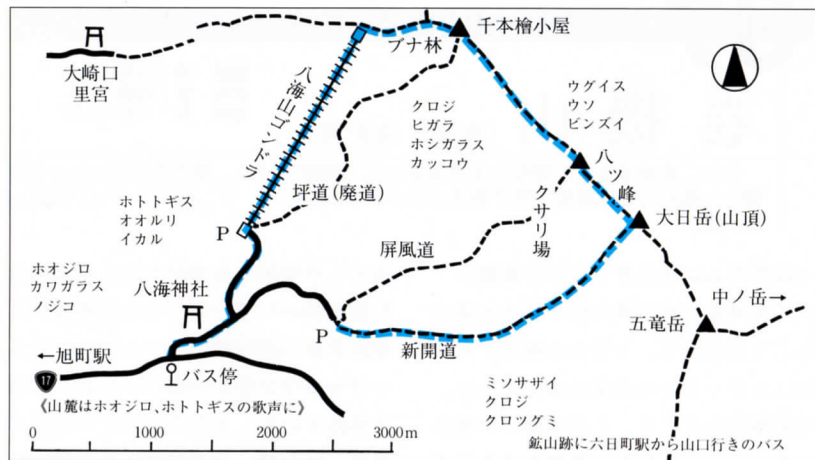
山頂駅付近はうっそうとしたブナ林で、動物たちの住みかである。クロジのローテンポな鳴き声が目立つ。女人堂（6合目）まで登ると樹林も低くなって見晴らしがよくなる。谷底から

はホシガラスのしわがれた鳴き声がして来る。千本檜小屋（9合目）は夏季シーズン中には、公衆電話が設置されるほどにぎわう。平地にいるはずのモズが現れ驚かされる。八ツ峰付近では沢筋からウグイスの声に交じってカッコウ、メボソムシクイ、ウソ、ビンズイの鳴き声が少し聞こえてくる。

この付近の岩場でイヌワシがひょっこり飛翔してくることもあるので期待したい。どこまでも続くブナ林の新開道の下りは気持ちがいい。沢筋からミ



城内登山口から望む八海山



ソサザイのリズミカルな歌声、クロジ、キビタキ、オオルリ、クロツグミなどのさえずりに心が洗われる。

<山ろくはホオジロ・ホトトギスの歌声に包まれて>

八海山神社わきは深い谷となっていて、ヤマセミがすんでいる。このあたりでは珍しかったハクセキレイも勢力を伸ばしてきた。広堀の八海養魚場付近ではおびたしいムクドリが巣造りをしている。ハシボソガラス、スズメも山の中の集落としてはかなり数が多く、スキー場開設など人里の変化に伴う野鳥たちの都市化現象をうかがわせる。

広堀川沿いにさかのぼっていくと杉林に群れるカワラヒワやメジロの姿が多い。河床に生えるクルミのこずえにノジコのさえずり、水面に直線的に飛

び込むカワガラスも見える。鉦山跡のズリ山には灌木の茂みができ、ホオジロの絶好の繁殖地となっており、ホトトギスが托卵のチャンスを狙っている。
 (木下 弘)

メモ

交通 JR六日町駅から山口行きのバス八海山ゴンドラ（6月15日～11月10日、平日8：30～16：30、土日休8：00～17：00）車は、六日町ICから20分。

☐ 八海山ゴンドラ山ろく駅に広い駐車場と軽食堂、売店、トイレがある。山頂駅、千本檜小屋にもトイレ有り。里宮登山口には駐車場有り。

探鳥会 特に行っていない。

道草 トミオカホワイト美術館

上越市出身の富岡惣一郎画伯の白を基調としたモノクロームの油彩「雪国巡礼」をはじめ、アラスカ氷河、オホーツク流水、中国桂林の作品が展示されている。